赤羽別院報 第39号
発行所
真宗大谷派
赤羽別院 親宣寺

〒444-0427
愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・Fax（0563）72－2308
Eメール
akabane_betuin@katch.ne.jp

伝統を現代に
－お経・正信偈の心を子や孫にわかる言葉で－

法事を現代語訳で

私は、お寺に生れ育ちながら、子供の頃から、漢文の音読のお経がちんぷんかんぷん意味不明なのに疑問を抱いてきました。

キリスト教の「聖書」のように、読んで解るお経がなぜ無いのかと思ったりもしました。

私が大谷大学で仏教を学び始めた頃、岡崎教区の櫻部先生が指導教授で、仏教学を学ぶその基礎の一つとして教えられたのが、木津無庵が編纂した、日本初の日本語訳のお経による仏教聖典『新訳仏教聖典』でした。

それを元にして形を変えたものが、今日では主要なホテルの客室に『聖書』とならんでいる『仏教聖典』です。

この中には、大乗仏教から原始仏教まで、さらに、私たちに親しみ深い浄土三部経も抄出し、意訳がなされています。

これらを資料として、二十年前に私は浄土三部経を抄出意訳したものと『正信偈』『三帰依文』などを組み合わせ、独自のお経の本を作りました。

お経って何が書いてあるの？

私の取組を初めから受け入れてくれたのは青少年です。

「お経にはこんなことが書いてあるんだ」、「観無量寿経は事件なのか」と。なんでこんなものがお経なのかとびっくりしています。

私が『正信偈』を意訳したのも、東本願寺の「夏の集い」に参加した中学生から「おっちゃん、この正信偈って、いったいどういう意味やねん」と聞かれて、即座に答えられなかった。それからずっと仲間と一緒に学習し、『正信偈』の意訳も作ってみました。

お経とは、本来、目覚めた人、仏陀の教えです。それは「慰霊・鎮魂の呪文」ではない。

いくらありがたく、私たちにとってかけがえのない真実の教え『無量寿経』であっても、漢文で読誦するときには「慰霊・鎮魂の呪文」のようにしか聞こえてこないことがあるものなんです。

それでは個々の自覚と他者との共存の知恵を、そこから見い出そうとすることが難しく、縁が生まれにくいのではないかと思います。

お経の根底には、非戦平和の願いと、あらゆる命あるもの、衆生と共にという精神が流れています。

読んで解る、聞いて頷けるお経に出遇うことこそが、より奥深い仏教の世界へのアプローチになっていくものと思い、私は現在もそれを続けております。

伝統とは何か

小林秀雄という文芸評論家のエッセイの中に「伝統について」という一文がございまして「伝統と習慣は違う。習慣というものは、私たちが無意識の状態においてやっている。くしゃみをした時に口を隠す、朝になったら、おはようと言う、顔を洗う。これが習慣ですね。伝統というものは、ある種一回客観化して、主体的に受け取り直すものなのだ」と仰っています。

主体的に一回客観化して受け取り直すということが抜けたら、ただの習俗や形骸、因習になってしまう。非常に大切な指摘を小林氏はしているのではないかと思います。

私が、『正信偈』の現代語訳を行うとき、決して私の思いつきでなく、親鸞聖人に学び、親鸞聖人という人の思想や教え・生き方、そのお仕事に立ち返ることを忘れないようにしています。

正信偈・和讃の製作

『正信偈』は歌の形です。親鸞聖人はなぜ『正信偈』と『和讃』を作ったのか。

この時代、念仏が禁じられ、弾圧をされました。承元の法難では、法然上人と親鸞聖人は引き裂かれて流罪になり、仲間四名は死罪になりました。

念仏への弾圧は、親鸞聖人生涯にわたり、時に触れ、折りに触れ行われました。その時代に禁じられた念仏を称え、人に勧めることは命がけのことであったに違いありません。

しかし、禁じられたからといって、隠してしまう訳にも、埋もれさせてしまう訳にもいかないのです。

法然上人から受け継いだ本願念仏の信、南無阿弥陀仏の念仏の声を、真実を闇に埋もれさせないためにできることは何か。仏教徒ですから武装して立ち上がるわけにもいかない。そこで親鸞聖人は言葉と歌を武器にした。歌にはそういう力があると親鸞聖人は信じていました。

さらに、親鸞聖人は『和讃』を作った。この和讃には「非僧非俗の精神」を表現するという意味が込められていたのではないかと考えています。勿論、仏徳讃嘆する報謝の歌ではあるが、そこに「非僧非俗、僧にあらず・俗にあらず」と、親鸞聖人が自らの社会的位置付けを表現したのです。

和讃は「今様」という七五調で作られています。「今様」は平安時代から民衆の間にはやった流行歌です。

この今様の流行歌は、民衆の中で老若男女、貴賤を問わずあらゆる階層で愛唱されていました。親鸞聖人が今様スタイルで和讃を作ったことには、このような背景があったのです。

蓮如上人の宗門改革

ここでヒントを与えてくれたもう一人が蓮如上人です。

蓮如さんは、親鸞聖人が亡くなって二百年後の時代に、本願寺の第八代を継承した方で、大きな仕事をされましたが、私なりにまとめた五つについてお話しします。

①親鸞聖人の『正信偈』『和讃』を出版し公開した。みんなが一緒に『正信偈』・『和讃』でお勤めできるようにした。

②『正信偈』と念仏と『和讃』をセットにした勤行「同朋唱和」というものを確立した。

③儀式は平座で

平座というのは上下、内外のない平等な空間です。内陣外陣は一応あるが、出入自由でどこに座ってもいい。蓮如さんが座ったところが上座で、他はみんな平等です。

今日、私たちのお寺や教団でも、本当の意味の平座という伝統を、どこか見失っているのではないかと思います。

平座による全員参加型の勤行をもう一度復興するということも必要ではないだろうかと思う訳です。

④『御文』を発信した

『御文』というのは手紙です。それをみんなが回し読みをし、また書き写していき拡がっていった。ある人が「蓮如さんはダイレクトメールの元祖」と言いました。これらにより⑤真宗の生活文化が「土徳」というものになっていった。

「土徳」という言葉が真宗の文化の中にあります。土の徳、つまり、大地に根付いて地下水となり私たちの道を求める心が、信心により汲み上げられ手渡されていく。その土徳は日本列島津々浦々まで限なく張り巡らされているので、縁があればその土徳は今また形を変えて現れてくるのです。

念仏を称え、『正信偈』を歌い、『和讃』を唄えば、必らず土徳を取り戻すことができ、私たちを育んでいくのです。

この土徳を失わないよう大切に、本当の伝統として、見つめ続けていかなければならないと考えています。

平成26年2月18日
岡崎教区宗祖親鸞聖人
七百五十回御遠忌讃仰講演会
戸次公正師講話要旨

■講師プロフィール

戸次　公正（べっき こうしょう）

1948（昭和23）年
大阪府泉大津市生まれ
大谷大学大学院修士課程修了
相愛大学非常勤講師
大阪教区　南溟寺住職
著書「親鸞の詩が聞こえる－エッセンス正信偈」東本願寺出版部
ほか多数

別院行事のご案内

夏の御文（げのおふみ）

7月15日(火) 午後1時
法話　第6組　専覺寺　楠　理見師

赤羽別院地域総代会（ちいきそうだいかい）

7月15日(火) 午後3時　夏の御文終了後

暁天講座（ぎょうてんこうざ）

8月25日(月) 午前6時
講話　第13組　明榮寺　小谷　香示師
8月26日(火) 午前6時
講話　第11組　本澄寺　椰野　明仁師

秋季彼岸会（しゅうきひがんえ）

9月22日(月) 午後1時
法話　第13組　慶徳寺　法輪　篤師
9月23日(火) 午後1時
法話　第11組　淨徳寺　太藤　順世師
9月24日(水) 午後1時
法話　六ツ美組　本光寺　稲前　恵文師

報恩講（ほうおんこう）

10月14日(火)
初逮夜　午後1時
法話　第4組　正願寺　三保谷　順師
10月15日(水)
日中　午前10時
逮夜　午後1時
法話　第17組　西岸寺　松林　了師
10月16日(木)
結願晨朝　午前10時
結願日中　午後1時
法話　第15組　明水寺　鈴木　聡師

第四回 みどうコンサート

10月14日(火) 午後3時30分・報恩講終了後
坊さんバンド　G・ぶんだりーか
詳細　4ページ参照

晨朝法話（じんじょうほうわ）

7月13日(日)　第14組　応春寺　大塚　順了師
7月28日(月)　同　蓮成寺　青木　馨師
8月13日(水)　第8組　順覺寺　山田　智洋師
8月28日(木)　同　福正寺　本多　友明師
9月13日(土)　第9組　源徳寺　藤原　知貫師
9月28日(日)　同　願専寺　大渓　界有師

赤羽地域教化センター
第3期新体制スタート

センター長　三浦　真教師・重任
主　幹　間島　享　師・新任

設立以来、2期6年を経過した赤羽地域教化センターは、センター長・三浦真教師を重任し、主幹には、新たに間島享師をお迎えして、新体制を確立するに至った。

4部で構成され、手さぐりでスタートした教化センターは、それぞれの分野で活発な活動に取り組み、着実な歩みを辿っている。

第3期となる向後は、三浦センター長のもと、既存事業の一層の充実を期すなかで、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要の勤修を目指す一方で、新たな方向性をも模索する展開が期待される重要な意味を持つ3年間となる。

真宗の宗風相続に向けて

センター長　三浦　真教

崇敬区域のご寺院・ご門徒の皆さまにおかれましては、平素より赤羽別院並びに赤羽地域教化センターの運営に当り、格別のご理解とご協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

第3期を迎えた赤羽地域教化センターは、一部のスタッフに交替がありましたが、4月からその活動を続けているところであります。

真宗の宗風は、これを支えてきた地域社会の絆が薄らぐなか、核家族化や生活様式の変化等による価値感の多様化により、世代間の意思疎通が図られず、培ってきた伝統の相続が危うくなっている状況にあり憂慮されます。

このような状況のなかで、別院会計の面でも年々、歳入の減少傾向が続いていますが、経費の削減に努めることにより、これまで実施してきた事業は継続を原則として参ります。

教化センターは、設立当初の思いに立ち、皆さま方の声に謙虚に耳を傾け、次の5項目の具体化を中心にして、スタッフ一同心を一つにして全力で取組んで参ります。

一、帰敬式実践運動の推進
二、地域総代会の実働化
三、別院報恩講の充実
四、宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌法要の勤修
五、新たな方向性の模索

これまでに変ることなく、ご指導とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

教化センター組織表

センター長　三浦　真教
主幹　第9組・良興寺　間島　享
書記　第13組・教榮寺　太藤　裕子
第11組・淨徳寺

儀式部
部長　石川祐美子　第10組　法圓寺
副部長　大河内哲　第14組　常瑞寺
圓山　慧之　第8組　淨願寺
大渕　正浩　第9組　正向寺
佐々木真哉　第11組　淨賢寺
藤濤　康秀　第12組　蓮光寺
雲英　真人　第13組　安休寺

伝道部
部長　松平　昌三　第12組　淨徳寺
副部長　法輪　篤　第13組　慶徳寺
信川　広司　第8組　随縁寺
木村　斉　第9組　福泉寺
林　良照　第10組　妙專寺
泉　弥生　第11組　聖運寺

暮らし部
部長　中根　壮治　第14組　西方寺
副部長　辻　正三　第14組・安專寺
山田　智永　第8組・順覺寺
藤原　知貴　第9組・源徳寺
鈴木　土平　第10組・香嚴寺
山背　隆文　第11組・菩福寺
永谷　基　第12組・光明寺
小原　隆巳　第13組・隆勝寺

広報部
部長　浅野眞理子　第14組　専興寺
副部長・赤羽御坊編集長　石川　鴻英
本多　友明　第8組　福正寺
櫻部　開　第9組　正覺寺
鳥山　貴利　第9組　精立寺
新田　智則　第11組　浄林寺
藤谷　信量　第12組　了願寺
間島　享　第13組　教榮寺
青木　一範　第14組　蓮成寺

誰もが集える場に！

主幹　間島　享

これまで広報部員として、「赤羽御坊」の編集に関わり、多くの人たちにお育ていただきましたが、この度、教化センター主幹に任ぜられ、正直、冷や汗が止まらず緊張の連続です。

まさに「器に非ず」の身でありますが、教化センターの更なる充実・発展に向けて、微力ながら精一杯歩み出す所存です。

本来、寺は誰もが集える場として存在するはずですが、私たちはどこかで教えを異とする人たちを排除していないだろうか。自分たちに都合のいい人だけが集まれば良いのだろうか？

今一度、問い返したく思っています。先輩方がお示し下さった「如来の心は『えらばず・きらわず・みすてず』の教え」を。

意を尽しませんが、皆様方のお力添えを賜わりますようお願い申し上げ就任の挨拶とします。

鶴見・安藤・伊奈師の法話
春季彼岸会を厳修

鶴見師の法話

昔の人々にとって、太陽の変動は最大の関心事であり、なかでも、一年に二度、真東から昇った太陽が真西に沈む「彼岸」は、「日没」を意識させる特別な期間であり、日没に「死」を重ね合わせ、想像し、生きることの一大事を問い直したともいわれています。

当院においても、春とはいえまだ肌寒さの残る3月20日から三日間、春季彼岸会・永代経法要が厳修されました。

初日の法話では「苦」をテーマとして、「現代の幸福感や社会制度の問題と仏教の関わり」について、第23組願正寺（豊田市）鶴見幹師に、二日目には、第14組安專寺の安藤智彦師より「仏縁を戴く有難さ」について、三日目は、第8組安楽寺の伊奈恵祐師から、善導大師がお説きになった「二河白道」について、それぞれお話しをいただきました。

経典には「この世とは別の願いの世界が説かれている」ということを受けとることができた、実りある貴重な三日間でありました。

いっぺんいくまい赤羽別院へ

伝道部長　松平　昌三

今般、教化センター伝道部長を拝命し、責任の重大さを痛感致しております。

真宗の危機が論じられる今日、宗祖親鸞聖人の教え・真宗の教義と本山及び赤羽別院の護持は、私たち真宗門徒の務めであります。

聞法を通し、自身が南無の心を申す道場として、また、一人ひとりが心を開く事ができるご縁の場が別院であり、お寺であると考え、精一杯努めて参る所存です。

仕舞なき研鑽『儀式作法』

儀式部長　石川祐美子

この度、儀式部長を仰せつかり身の引締まる思いであります。

真宗で最も大切な儀式である報恩講の充実をはじめ、先人が取り組まれた各種事業を引き継ぐ一方で、儀式作法の研鑽に努めて参る所存です。

「儀式」という考えを「荘厳」という考えに変えていって欲しいと話された菅生先生の言葉を受け止め「正しい装束・正しい所作法」の修得を目指します。

皆さま方のご指導・ご鞭撻とご協力をお願い申し上げます。

鈴木磐師の法話
報徳会厳修

報徳会は、4月11日帰敬式に引続き、鍵役・信悟院殿ご参修のもとに厳修された。

年行事の方々の心のこもったお斎をいただいた後、勤行に次いで第11組聖運寺門徒・和田哲也氏の感話を戴いた。

氏は、ご自身の体験から、全てに支えられてきた感謝と、皆に支えられる人生を表わした「来た道よありがとう、ゆく道よどうぞよろしく」という座右の銘を披露された。

法話には、第20組淨教寺前住職・鈴木磐師をお迎えした。

師は「仏陀釈尊伝」を紹介される中で、釈尊（お釈迦さま）の誕生のことや、出家をやめて悟りを開いたことを話され、釈尊の言葉の中から、仏教のテーマは「不自由な生き方から解放される」ことであると説かれた。

鈴木師の法話

普段、何かに縛られて生きている私たちは、何に縛られているのか気づくために、教えに聴き、教えに出遇うことが大切であると感じた。

新たな視点で仏法を！

暮らし部長　辻　正三

引き続き、暮らし部を担当させていただくことになりました。

従来の仏教とは違った視点で、仏法に縁の薄かった方、寺参りはまだ早いと思ってみえる世代の人たちにも、別院やお寺に足を運んでいただけるような取り組みで展開して参ります。

これまで俳句やコンサート等を手がけてきましたが、内容の充実を期すべく、皆さん方からのご要望やご提案をお寄せ下さいますようお願い致します。

仏法の大切さを感じる新聞！

広報部長　浅野眞理子

この度、教化センター広報部長を仰せつかりました。

崇敬区の皆さんに、赤羽御坊新聞を通して仏法の大切さを感じていただくとともに、赤羽別院に親しみを持って戴けるよう努めて参ります。

つきましては、各寺院並びに各組が取組む教化事業等の情報提供と、新聞がご門徒さんお一人おひとりに行き渡るべくご配慮賜わりますよう、重ねてお願い申し上げる次第です。

岡崎教区 宗祖親鸞聖人
七百五十回御遠忌法会を厳修

核家族化・世俗化等生活様式の変化により、葬儀・法事やお寺の存在感が曖昧となり、真宗の宗風が風化の一途を辿っている今日、この重大な問題解決に向って、僧侶・門徒が共に歩みを進めなければなりません。共に創造できる場、新たな一歩を踏み出す場とならんと願い「岡崎教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法会」が、大勢の寺族や門信徒の参拝のもとに厳修された。

深緑の候・5月15日、岡崎教区が開催した「岡崎教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法会」は、大勢の寺族・門信徒が岡崎市民会館大ホールを埋め尽した。

全員でお勤めした同朋唱和は、舞台と客席を一つにして、この法会の意義を象徴しているようであった。

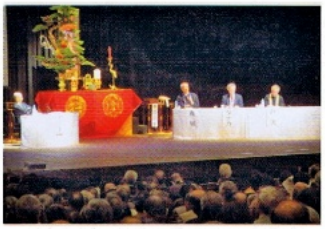
続く、真城義磨師の基調講演は、2月に開催された讃仰講演「念仏とお内仏」の話を、更に深めて「生活と仏事」と題されたとおり、極めて身近なるが故に、普段では見逃したり、蔑ろにされがちな課題を改めて明らかにされた。

また、同じく事前開催の讃仰講演会での、ケネスタナカ氏と戸次公正師においても、そのテーマが「寺を開かれた念仏の道場に・真宗仏事の回復・本願念仏に生きる人の誕生」と題される如く、真宗が直面している問題に対し、より現実的な突破口が示唆された。

この後、渡邊晃純師をコーディネーターとして、アメリカにおける実践的な活動を通し国際的な視座に立つケネス氏、伝統を現代の子や孫に伝える事に腐心する戸次師、並びに、葬儀や法事等の形骸化に警鐘を鳴らす真城師の三名のパネリストによるディスカッションが行われました。

ここでは、私たち一人ひとりの眼前に山積する諸問題を浮き彫りにすると同時に、これらを紐解く処方箋を摸索するうえでの多くのヒントをお示し下さったのではないでしょうか。

最後に、岡崎教区教化テーマとして「見つけよう、生まれた意義と生きる喜び～生活の中心に南無阿弥陀仏を～」を採択・宣言して盛会裏に終了した。


パネルディスカッションのようす

十六名が仏弟子の仲間入り
帰敬式を執行

桜花爛漫の4月11日、赤羽別院では18回目となる帰敬式を開催し、本山鍵役・信悟院殿のお剃刀により、新たに16名の仏弟子が誕生しました。

式前のお御堂内は、肩衣と念珠を身につけ緊張気味な面持ちの受式者と、それを見守る皆さんが共に静まり返り、帰敬式の厳粛さを物語っていました。

鍵役が入堂され、真宗宗歌斉唱・三帰依文をいただいた後、剃刀の儀が始まりました。

合掌のまま髪の毛を剃り落とす形をとる「お剃刀・おかみそり」を、受式者一人ひとりが受けられました。

この後の法名伝達では、鍵役から名人に直接「おめでとうございます」の声とともに「法名」が手渡されました。

執行の辞では「仏・法・僧の三宝に帰依し、真の仏弟子となるということは、仏法を聴聞し、讃嘆して、み教えに照らされた真の道を、自らの人生として歩んでいくということです。今後は、宗祖親鸞聖人が顕かにされた本願念仏の教えを、日々の生活の拠り処としていただきますように」と述べられました。

また、「法名の『釈』の字は、お釈迦様の一字をいただいた尊いお名前です。法名を生涯大切にされますように」と伝えられました。

受式者を代表して、鈴木幸雄（釈幸証）氏が「受式者の一人ひとりが新たな自覚に立ち、法名をいただくことの意義と、聞法を生活の中で大切にすること」を誓われました。

是非、生活の中で法名を名告っていただきたいものです。

お剃刀のようす

受式者誓いのことば

第三回みどうコンサート
名コンビ鈴木君代&天白真央師

三回目のみどうコンサートが、3月20日赤羽別院で開催された。

名コンビの本山職員・鈴木君代&六ツ美組浄妙寺住職・天白真央師をお迎えし、法衣をまとってのギターとシンセサイザーによる弾き語りに、堂内は大きな拍手で応えた。

二人の自己紹介のなかで、故野々山洪美元輪番との思い出話が披露され、一瞬堂内が静まり返るシーンもあった。

コンサートでは、蓮如上人の「白骨御文」に曲をつけたもの、念仏の教えを伝えるオリジナル曲等の間に交わされる、両師の軽妙なやりとりに沸き返るシーンや心を動かされる話に、目頭を熱くする門徒や僧侶の姿があちこちで見受けられた。

昨今、絵解き・平曲・節談説法・法話楽団等多様な伝道の形が息づく崇敬区域内に、新しい風が吹き込まれたような爽やかな法座だった。

「歌っている私に力があるのではない。歌っていることに力があるんです」と静かに話された鈴木師の言葉が耳に残り、常に相方を見守るが如き穏やかな笑顔の天白師の姿が印象に残った。

合奏・合唱のようす

夏の勉強会あれこれ

◇**第8組**
青壮年同朋教室
8月23日(土)午後7時30分
同朋教室
8月24日(日)午前9時30分
午後1時30分
会所　両日とも　宿縁寺
講師　今治市・善照寺
真城　義磨師

◇**第9組**
夏期講習会
8月22日(金)午前9時30分
午後1時
講師　池田市・如来寺
釈　徹宗師
8月23日(土)午前9時30分
午後1時
講師　小松市・西照寺
日野　賢之師
会所　両日とも　正向寺

◇**第12組**
夏期真宗講座
7月12日(土)午後1時30分
会所　願海寺
講師　加賀市・光闡坊
佐野　明弘師

◇**第13組**
夏期真宗講座
7月24日(木)午後1時30分
会所　長寿寺
聖典学習会
7月25日(金)午前9時30分
会所　良宣寺
夏期真宗講座
7月25日(金)午後1時30分
会所　良宣寺
講師　一宮市・養蓮寺
中村　薫師

◇**第14組**
夏期真宗講座
7月11日(金)午後7時
会所　本傳寺
講師　大谷大学教授
門脇　健師

各組が取り組む夏の勉強会です。お誘い合わせのうえ、組を越えてのご聴聞をお待ち致しております。

門徒の声
ほとけさまってどんなお方

「法身は、いろもなし、かたちもましまさず。しかればこころもおよばれず。ことばもたえたり。」―唯信鈔文意―

私は若き頃聞法の場で、この一文の教えにあずかりました。即ち「仏さまは色も形もなく、凡夫には考えも及ばず言葉もなく」と。

それまで私は、仏さまは寺々に安置してあるお仏像であったり、家のお内仏の中のご絵像であると思っておりました。何ということか！私は大きな衝撃を受けました。

「仏さまは、色も形もない」それから長い間私なりに考えました。

私の居る場所は形も色もあり、目で見てわかる世界（娑婆）にのみ生きてきた私にはどうしても考えられず、悶々といたしておりました。

その結果、私なりにやっと辿りついた答は「空気のようなお方。風のようなお方。」でありました。

ある時、西方寺の花部屋で「清澤満之に学ぶ会」があり、山崎正広先生にそのことをお尋ねしたところ「あんたが、そのように捉えるのは間違っている」と申されました。

3～4年前、テレビで「千の風になって」という歌を聴き「まるで見当違いでもなかったか」と今は思っています。

方便法身、報身、応化についても学んできました。

大石先生は「わかっちゃいけんのよ」と申されます。

仏さまは、色もなく、形もなく、言葉もたえて、この私となって生きていてくださいます。

清澤満之記念館職員　酒井　笑子

宴会
法事
仕出し
松花堂、割子弁当、オードブル
35日・49日・1周忌など
各種ご用命、承ります
◆お弁当　1,000円+税～◆
募集
・スタッフ（年齢問わず）
・土日アルバイト（高校生・大学生可）
問い合わせ　090-8679-1895
だい忠
碧南市天王町4-2
☎0566-41-0375
月曜定休

創業安政6年　お仏壇自社製造
お仏壇　念珠　お香
手づくり工房
明日香
碧南市民病院南600m　TEL 0566 41-2113

if イズモ葬祭
家族葬から終活のことまで「イズモ」。
イズモホール西尾
0563-56-1011
イズモホール西尾　検索
年中無休／〒445-0063　西尾市今川町落20

■■■カルチャーウォーク・その17■■■

藤原藤房卿縁りの 西尾市一色町 養林寺を訪ねる

赤羽別院から南東へ徒歩10分。東光山養林寺は、平安時代の八〇六（大同元）年に創建された由緒ある寺です。第19世・藤原藤房卿が住職となった一三四〇（興国元）年から、代々血脈が受け継がれ現在に至っている。

蓮如忌法要を控えた穏やかな春の日差しの中、第39世・東脇芳泉住職を訪ねた。

開基の順徳は、本名を柵木長衛門という城州（現・京都）の人である。八〇六（大同元）年秋、聖徳太子自作の阿弥陀如来像を捧持し赤埴（味浜）の里（現・味浜）に来て、堂宇を建立したと伝えられている。

当時は天台宗の寺院で、華厳院と名告っていたが、何時からか無住寺となっていた。

この寺を再興したのが、後醍醐天皇の側近で右腕ともいわれ、正二位中納言まで勤めた人物・藤原藤房卿である。

公家と武家の政争等に失望、突如仏門に帰依して各地を行脚するなかで、この地に流れつき、近在の村人たちから懇願されて寺門興隆に尽力し第19世を継承した。

その後、第20世光房が住職継承の折、一三五四（正平9）年に真宗に改宗し、寺名を養林寺と改めた。

境内の一角には、藤原卿の古墳塚とみられる墓がある。

山門から本堂を望む

一九〇九（明治42）年に、藤房に関する寺宝・古文書等を調査し、墓地の発掘点検で遺骸一体が見つかったのである。

発掘調査に立ち会った牧野堯氏は「遺骸の右側の枕石には『藤原藤房天授六年三月二十八日卒』と刻字されていた。遺体は薄茶色の黒味を帯びたもので、奥歯が3本あり、身長は7尺ほどの立派な体格であった」と述べている。

この調査に至るまで、ご門徒衆が藤房卿の顕彰・保存に努めていたことは、大変意義深いものがある。

また、寺には藤房卿の自作と伝える木像や後醍醐天皇から賜わった如意輪観音座像等貴重な宝物が所蔵されている。

二〇〇八（平成20）年には、本堂の修復が成り、堂内の板張り椅子席やトイレ設置など参拝者にやさしい心遣いがなされているのが特筆される。

この折の落慶法要を機縁として、毎年11月の報恩講には各座ごとの勤行・拝読文を掲載した冊子を作成するなど、同朋唱和に力を注いでいる。

住職は「寺は地域の憩の場であり、お同行でなくても気軽に足を運んでもらいたい。境内を親子連れで散策したり、ベンチで語り合っている姿を見ると嬉しいですね。門はいつも開いていますよ」と笑顔で話された。

合唱で盛り上がる 花まつり開催

第12組 浄徳寺

桜花爛漫の4月6日・第12組浄徳寺では花まつりが盛会裏に開催された。

この花まつりは、同寺同朋の会（文殊の会）壮年部が中心となり、20年の歴史を誇る大切な行事である。

かっては、岡崎教務所から借りた花まつりのシンボル「白い象さん」で盛り上げていたが、昨今ではバザーに力を入れ、参拝者へのおもてなしとして、境内で焼そば・おでん・餃子を、客殿ではお抹茶サービス等により、お寺が楽しいふれ合いの場となっている。

今年で結成31年目の浄徳寺同朋の会には、本山より結成30周年を称讃する顕彰があり、会の代表・岡田咲枝さんに表彰状と記念の品が贈られ、満堂の参拝者の拍手に沸いた。

この後、岡崎教区坊守会合唱団（コールアーバー）と第14組西光寺親讃会のみなさんにより、仏教讃歌をはじめ全8曲が合唱された。

ここでは、指揮者・長田明子さんにより歌唱指導があり、最後に全員参加による復興支援ソング「花は咲く」と「なんまんだぶつの子守歌」が合唱された。

コールアーバー他の皆さん

子ども花まつり アルミ缶アートで楽しむ

第14組 専興寺

去る3月24日、第14組・専興寺ではリサイクル事業「アルミ缶をアートの世界へ」と銘し、アルミ缶を切り開いた平板に絵を描き、色を塗って飾り盾を製作するアルミ缶アートが行われた。

花まつり事業の一環として昨年に次いでの催で、大人から子どもまで多数の参加者が熱心に取り組み、素敵な作品が次々と作り上げられた。

なかには、昨年の作品と見較べて、その上達ぶりに満足げに頷いたり、友だちと互いに見せ合って称え合う姿があちこちで見受けられた。

この後、本堂の中では楽しいゲームが続き、大きな声で大変な盛り上りを見せた。

なかでも「尻ずもう」は小さい子どもに人気があり、「はっけよい！」の声に合わせて、尻ずもう台の土俵の上での可愛い動きに、お母さん達も笑顔いっぱいであった。

境内では、組の坊守さんが手造りした「白い象さん」に乗って遊ぶ子どもの姿があった。

大勢の参加のもとに、みんなで仲良く・楽しく「仏さまの行事」が行われ、有意義な花まつりとなった。

みんな真剣です

得度研修会に参加して

去る3月25・26日、岡崎教務所で開催された得度研修会に参加した。

初日は講義・装束作法・座談会があったが、どれも初めてのことで戸惑いましたが、夕事勤行で初めての磬役を経験させていただき、緊張はピークに達した。

二日目には、講義と声明作法が行われ、私はかつてない程授業に集中し「折角だから全てを吸収して帰ろう」という気持になった。

全ての講義を終了し、その後の考査では9組から参加した坊守4名全員が無事合格。本山での得度式を了えれば晴れて僧侶となれる。

お仏壇もなく、お寺とは縁のない家庭に育った私が僧侶になる訳で、ご縁とは本当に不思議なものですね。

僧侶となることへの重みを日々感じつつ、だからと云って何も変らないいつもの自分を受け入れながら、一歩一歩進んでいきたい。

得度研修会を無事に了えて、そんな風に考えている。

第9組　源徳寺坊守　藤原　明子

人事

◆平成26年3月31日　発令
書記退職　永谷　在
第12組・光明寺　住職
◇　退任のことば
父親が列座で四十五年余、私のお朝事参りからでも十四年余と、二代続けてお世話になりありがとうございました。
坊守急逝後、遅れ気味の事務処理を木村書記に託して去りますが、よろしく。

◆平成26年4月1日　発令
書記就任　木村　亮
第9組・福泉寺　衆徒
◇　就任のことば
この度、永谷師の後任書記を仰せつかりました。
至らないことばかりと存じますが、皆さま方のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

第8回 御坊俳壇・川柳

選者　三浦　貞葉氏他

俳句（順不同）

花冷えの　正命日や　般若湯　力富　敬子
卓袱台の　一つで暮らし　昭和の日　斎藤　浩美
村の寺　彼岸詣の　顔馴染み　神原　重子
桜蕊　降るや御坊は　雨の中　信川　芳枝
春火鉢　馳走の一つ　合掌家　近藤　章枝
花蓮　踏んで赤羽　誕生会　大渓　美恵
花の塵　掃く信心の　竹箒　三浦　葵水
雪柳　風にうねりて　なお白し　近藤　貞子
無住寺の　一際明るき　山躑躅　名倉美枝子
小流れに　まかせて蝌蚪数珠繋ぎ　杉浦　紀子

川柳（順不同）

勤行や　嫁の導師の　声やさし　中根佐代子
ぶつかって　磨かれていく　人の道　鈴木　幹
コンサート　余韻に花の　揺れ止まず　吉見　ひで

次回応募締切り　7月31日です

編集室

昨今では、日本人の宗教観に首を傾けざるを得ない。

法事の省略をはじめ、葬儀式の簡略化が進み、観光寺には出掛けるが、仏事としてのお参りには行かない。この傾向は団塊の世代にまで及んでいる。

真宗の危機が叫ばれる今日、真宗は一体どこへ行ってしまったのだろうか？

日本経済の高度成長がもたらした、核家族化や個人主義等により、親から子・子から孫への法義の伝承・相続が難しくなったことがその原因の一つであるが、本号講話に記される戸次師の取組には、大いに考えさせられるものがある。

伝わっていなければ、伝えるしかない。その手段は多様であると思われるが、僧侶の努力に委ねるところが大であることは言うまでもない。皆が仏事（月参り・年忌・葬儀等）を大事にする気持ちをとりもどさなければならない。

第4回 みどうコンサート

10月14日（火）午後3時30分
報恩講終了後開催

9人の坊さんバンド G・ぷんだりーか
法話と音楽のコラボ！

テーマ「いのちの輝き」
「ぷんだりーか」の意味は「白蓮華」です。
お誘い合わせのうえお出掛け下さい。

お寺の掲示板

善人になるよう
悪人と気づくのは
難しい
第八組・浄願寺

物品寄贈懇志
一、同朋唱和勤行集　五十冊
・聖運寺様

赤羽御坊新聞懇志
・唯信寺様

貴重なご懇志を有難うございました。